

## 小川の地に息づく河童の伝説

河童といえば、水辺の妖怪として日本ではおなじみですが、小美玉市にも河童の伝説がいくつかあります。今回は手接神社と川戸地内に残る河童の伝説をご紹介します。

### 手接神社の河童伝説

寛正6年(1465)頃、芹沢村(現行方市内)の殿様であった芹沢隠岐守俊幹が、梶無川にかかる橋を馬に乗って渡ろうとしたところ、河童が馬の尻尾をつかみ、川に引きずり込もうとしました。殿様は河童の手を刀で切り落とし、それを城に持ち帰りました。するとその夜に河童が現れ、手を返してほしいというので手を返し、殿様はそれにお礼に手を元通りに治す秘伝の薬や「きりすね」の作り方を授かりました。加えて翌日から毎日、河童が殿様に魚を届けるようになりました。

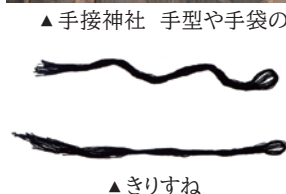
何年か続いたある日、突然魚が届かなくなりましたので、殿様が川を見に行くと河童が死んでいました。哀れに思った殿様が川沿いに小さな祠を

立てて河童の霊を祀り、手接明神としました。永正4年(1507)には篠原明神の社地に遷り、水神罔象女命と相殿されて現在の手接神社になったと伝えられています。

手接神社は手の病にご利益があるといわれ、手のけがや病気の快癒を祈り各地から手型や手袋が奉納されています。また、きりすねは今も参拝者に授与されています。糸を束ねた紐で手の痛いところに巻き、糸が切れる頃に痛みが治ると言い伝えられています。



▲手接神社 手型や手袋の奉納



▲きりすね



▲とげ抜き薬 (個人蔵)

### 川戸の河童 とげ抜き薬の伝説

応仁の乱(1467～1477)の頃、現在の川戸地内に住む村人が、近所の鎌田川の岸に河童を見つけた。河童は村の作物を盗むなどの悪事を働いていたので、刀で成敗しようとしたところ、河童は命を助けてくれるなら、とお礼にとげ抜き薬の作り方を教えました。

とげ抜き薬の作り方は現在も子孫に伝わっており、「困っている人に分けてあげてほしい」という河童の言い分けを守り、希望する人に無償で渡しているそうです。

### 「河童の伝説」が生まれた背景

今回紹介した2つの伝説は、ともに応仁の乱の前後に生まれました。都市では火災や略奪、農村では疫病や飢饉が相次ぐなど、社会の秩序が大きく乱れた時代です。そのような背景もあって、人々の不安と恐怖から「妖怪」がこれらの災いを引き起こしていると、広く信じられるようになりました。

### 企画展「みつけた!小川の河童 -小美玉に伝わる河童伝説-

会期 8月8日(土)～9月27日(日)  
場所 小川資料館(小川図書館2階)  
休館日 月曜日(9月21日を除く)、9月1日(火)、24日(木)

※8月30日(日)10:00～11:00まで、小川図書館2階にて、話し方教室による小川の河童伝説のおはなし会を開催します。

### 語句解説

相殿 神社の本殿において、主祭神に加えて他の神を合わせて祀ること。

河童という妖怪も、水難事故を引き起こす存在とされ、悪事に対する詫びとして秘伝の薬を授かるという伝説は各地に存在します。しかし、その秘伝の薬が現存していたり、河童の霊を祀ったことに由来する神社があるのは全国的に見ても貴重です。そもそも河童は、水神の末裔とされています。このことを踏まえると、水神と河童が同じ社内で、しかも「小川」の地でまつられているというのも、どこか不思議な縁を感じます。

(小川資料館 久保田 洸平)